

2017年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	服部 龍二		
NAME	Ryuji Hattori		

1. 研究課題

(和文) 現代日本政治と外交

(英文) Contemporary Japanese Politics and Diplomacy

2. 研究期間

1年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

申請者は20年数来、政治外交史の研究に従事してきた。その成果としては、拙著『大平正芳理念と外交』（岩波書店、2014年）、拙著『外交ドキュメント 歴史認識』（岩波新書、2015年）、拙著『中曽根康弘——「大統領的首相」の軌跡』（中公新書、2015年）、拙著『田中角栄——昭和の光と闇』（講談社現代新書、2016年）などが挙げられる。

その過程において、政治家や外交官に対するオーラル・ヒストリーを実施した。具体的には、谷野作太郎／服部龍二・若月秀和・昇亜美子編『外交証言録 アジア外交 回顧と考察』（岩波書店、2015年）、朝賀昭／福永文夫・服部龍二・雨宮昭一・若月秀和編『田中角栄——最後の秘書が語る情と智恵の政治家』（第一法規、2015年）、法眼健作／加藤博章・服部龍二・竹内桂・村上友章編『元国連事務次長 法眼健作回顧録』（吉田書店、2015年）、栗山尚一／服部龍二編『戦後日本外交 軌跡と課題』（岩波書店、2016年）などである。

本研究ではこれらを発展させ、内外政策の形成過程と国際秩序構想を実証的に分析した。なかでも、高度成長期、とりわけ最長政権を担った佐藤栄作を軸に保守政治家の対外観に注目し、アジア太平洋外交を歴史的に跡づけた。佐藤政権期は大学紛争や万博に象徴される時代であるが、政策面では、特に沖縄返還、高度成長のひずみ是正に焦点を絞った。

(英文)

I studied Japanese politics and diplomacy in this research and analyzed the process of domestic and foreign policies and the international order plan in 1960s and 1970s.

I focused on conservative politicians relative to the period of the High Growth Period (Kodo seicho-ki). Especially, Eisaku Sato took the longest government. This research traced Asia - Pacific diplomacy historically. The Sato administration period is an era symbolized by university conflicts and Expo. Among them, I focused on policies on the return of Okinawa and the correction of strain of the High Growth Period.